

# 伐って、使って、植えて、育てる循環型林業と、 品質管理と安全性の追求で次世代へ繋ぐ

和歌山県の山とともに約300年歩み、木を植えて育て、  
製材、プレカット加工まで一貫して行う実践者に、  
紀州材の魅力や品質管理のデジタル化、和歌山の林業の展望を聞いた。

紀州材は強度のほか、色つやの良さも評価されている。



**宮崎知事(以下宮崎)** ◆榎本さんが会長を務める山長商店は、田辺市で約300年の歴史を持つ林業・製材会社です。植林から育林、伐採、製材、さらにはプレカット加工までを一貫して行い、国産材、とりわけ無垢の紀州材に強いこだわりを持っておられます。「木の国」と呼ばれるほど山や森林との繋がりが深い紀州の地で、長年林業に携わってこられた歴史についてお聞かせください。

**榎本会長(以下榎本)** ●山長商店は、江戸時代に紀州備長炭を扱う問屋として創業しました。自ら植えた山を伐り、再び植えるという循環型の林業を始めたのは、父が大学を卒業して戻ってきた昭和10年代のことだと聞いています。昭和

和20年代にはエネルギー源が石油やガス、電気へと移行行き、全国的に薪炭林業からスギやヒノキの造林へと転換が進む中で、当社は昭和26年頃からいち早く拡大造林に取り組んできました。紀州の山で山頂までスギやヒノキが植えられている風景が見られるのは、林道もない山奥まで通いながら、7、10年かけて下刈りを続けてきたからなんです。

**宮崎** ◆高い場所まで隔々に植えられている光景から、ここまで丹念に手をかけてこられた先人のご苦労がよく分かりますよね。

**榎本** ●そうですね。私が社長に就任した1996(平成8)年頃は、住宅づくりが大きく変わろうとしていた時代で、木材を工場であらかじめ指定された寸法や形状に切断・加工するプレカットという技術が全国的に動き出していたんです。そこで当社でも、加工した状態で紀州材を工務店さんや施主さんに使っていただき、山から製材、プレカット、工務店へと繋げていくことを考えました。



山長商店では強度や水分量の検査を行った後に出荷する。

## 外材の価格高騰で 国産材が選ばれる

**宮崎** ◆私が幼い頃は、建築現場で長い間作業が行われるのが当たり前でした。ですが、近年ではあつと言間に建物完成するようになり、どのような仕組みなのだろうと不思議に感じていたのですがプレカットという技術を知り、腑に落ちました。それから、戦後に植えられた木々が、今まさに伐採期を迎えていると伺っています。非常に多くのスギやヒノキが「宝の持ち腐れになってしまっているのではないか」といった感覚が全国

# 知事対談

## 榎本 長治 × 宮崎 泉

株式会社山長商店 代表取締役会長

和歌山県知事